

第141回 総会および研究会開催

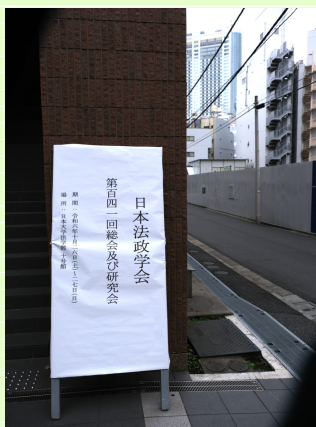
令和6年10月23～24日

於：日本大学法学部

令和6年10月23・24日の2日間にわたり、第141回日本法政学会総会および研究会が、日本大学法学部で開催された。各日程に約60名の会員が集まった。今回の学会では、1日目に4報告およびシンポジウム、2日目には7報告がなされ、非常に充実した内容であった。



▲開会の挨拶をする松野民雄理事長



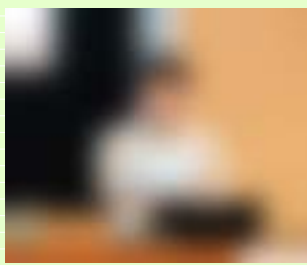
▲会場となった日本大学法学部神田三崎町キャンパス10号館

【第1報告】



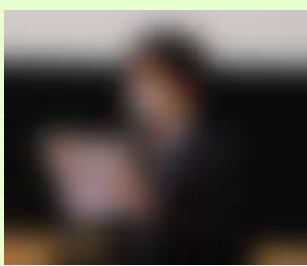
市川大地会員「田中美知太郎のディアレクティケー真理探究における『自由』の精神」

【第2報告】



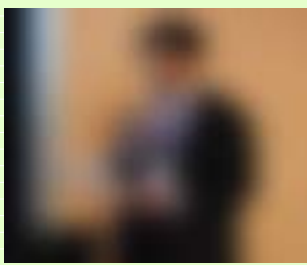
中島啓子会員「生涯活躍社会の実現に向けた高齢者の『新雇用像』におけるキャリア形成がもたらす社会的影響とその対策」

【第3報告】



齋藤航会員「物に対する不法行為における、交換価値によらない財産的損害額の算定」

【第4報告】

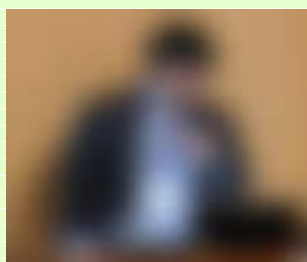


長谷川福造会員「行政のデジタル化に関する法的問題の考察—住民意思の反映と適法性確保の観点から—」

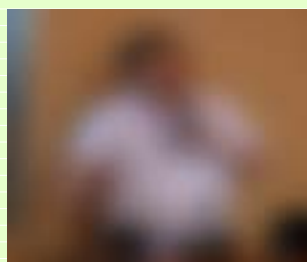


▲受付の様子

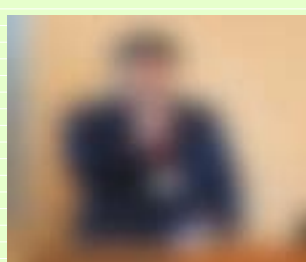
【シンポジウム】「成人と少年の狭間で」



宋戸圭介会員「成年年齢の引き下げと性別の取扱い変更について」



河村和徳会員「選挙年齢引き下げに係る隠れた論点」



西山智之会員「18歳・19歳と少年法—少年法における適用年齢引き下げの議論を題材に一」



鈴木静会員「家族をケアする若者のおかれた現状と社会保障法制の課題」

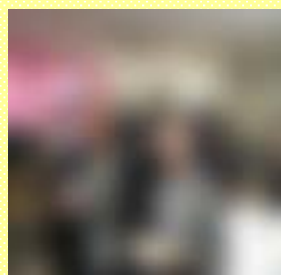
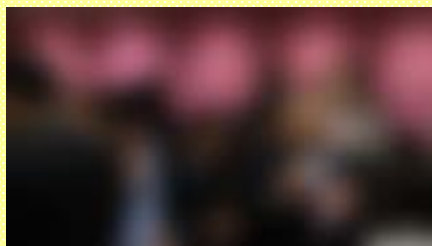
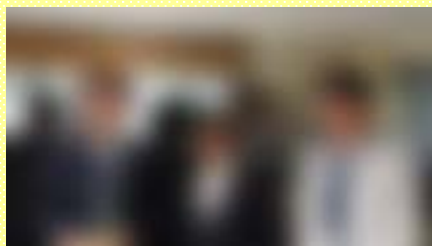
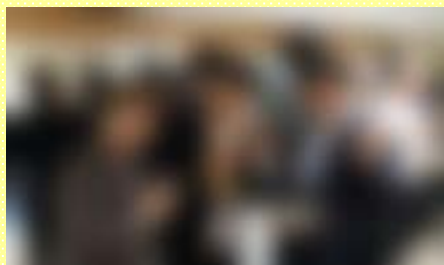
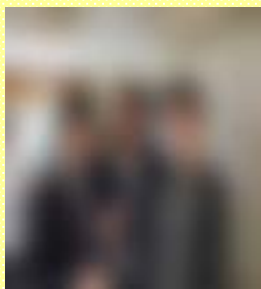
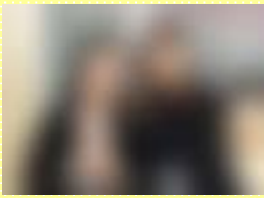


▲総司会を担当する宮畑加奈子会員



▲企画趣旨説明および総括を担当する神元隆賢会員

懇親会



【第5 報告】



犬塚記子会員「アメリカにおける平等保護の根拠条文をめぐる憲法的考察―修正5条とBolling判決を素材として」

【第6 報告】



村岡敬明会員「西銘知事の第一次産業における公共政策を中心として」

【第7 報告】

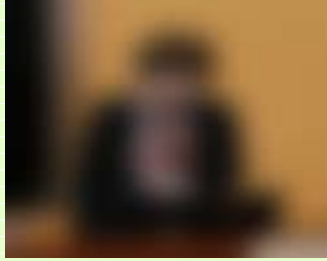


金川めぐみ会員「介護時間訴訟をめぐる動向と課題」

▶2日目に開かれた総会において、新理事および幹事について承認され、新理事となった福島康仁会員の挨拶がなされた。そして、福島新理事長から、新体制となった学会が目指す6つの項目について所信表明がなされた（右下参照）。



【第8 報告】



石田瞳会員「多疾患併存（multimorbidity）患者におけるチーム医療体制の現状と課題」

【第9 報告】



木村美智子会員「日本の近代化と捕鯨―日露戦争を中心として」

【第10 報告】



今枝昌浩会員「ドイツにおける政党への加入と内部秩序」

【第11 報告】



松本幸治会員「任意入院者に対する精神科病院の説明義務―最判令和5年1月27日判時2578号5頁を契機として―」

【新理事および新監事の紹介】

【選挙理事】（五十音順・敬称略）	【推薦理事】（五十音順・敬称略）
1 福島康仁（日本大学、行政学）	1 浅野一弘（日本大学、政治学）
2 浅野和生（平成国際大学、政治学）	2 飯塚智規（城西大学、行政学）
3 小野義典（城西大学、国際法）	3 大野正博（朝日大学、刑事法）
4 野澤基恭（東京国際大学、国際法）	4 後藤 新（武蔵野大学、政治学）
5 宮畑加奈子（広島経済大学、台湾法）	5 宍戸圭介（岡山大学、憲法）
6 草鹿晋一（京都産業大学、民事訴訟法）	6 白鳥 浩（法政大学、政治学）
7 石田 瞳（追手門学院大学、民法）	7 杉原充志（羽衣国際大学、比較法）
8 胡 光輝（常葉大学、民法）	8 鈴木 静（愛媛大学、社会保障法）
9 松野民雄（宮崎産業大学、民法）	9 富樫ひとみ（茨城キリスト教大学、社会福祉学）
10 林弘正（島根大学、刑法）	10 根岸 忠（高知県立大学、労働法）
11 森田悦史（国士舘大学、民法）	11 濱田絵美（熊本大学、民法）
12 金川めぐみ（和歌山大学、社会保障法）	12 林 紀行（日本大学、地方自治）
13 小河達之（岡山大学、医療情報学）	13 牧野高志（平成国際大学、民法）
14 倉田賀世（熊本大学、社会保障法）	14 松浦淳介（慶応義塾大学、政治学）
15 神元賢隆（北海学園大学、刑法）	15 渡辺森児（近畿大学、民事訴訟法）

【幹事】（五十音順・敬称略）
1 中田達也（神戸大学、国際法）
2 星野智子（大阪緑涼高校、法社会学）
3 村松伸治（日本文化大学、憲法）

【ご挨拶】

前理事長 松野民雄

私は、令和3年11月28日、日本法政学会第14代理事長に就任し、以後3年間、本学会の運営責任者として学会運営業務を執行してきました。理事長就任前の3年間は、事務局長として、学会運営業務を担当してきました。事務局長時代から通算6年間、本学会の運営に努めてきました。これまで、会員各位のご協力のおかげで、何とか無事に、学会運営を遂行することができたと思っています。行き届かない点多々あったかとは思いますが、ご海容いただければ幸いです。これまでの6年間、大変お世話になりました。多大のご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございます。

今後も、学際的研究の推進と若手研究者の支援の充実を図りながら、日本法政学会が益々発展してゆくことを願っています。併せて、研究者としての会員各位の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

【理事長就任のご挨拶】

この度、日本法政学会理事長に就任いたしました福島康仁と申します。長い歴史と伝統を誇る本学会の理事長を拝命し、誠に光栄に存じますとともに、その重責に身の引き締まる思いです。1953年の創立以来70年近い歴史を誇り、本学会は法学、政治学、その隣接領域における研究の深化と発展に多大なる貢献をしてまいりました。会員の皆様の熱意とご尽力により、本学会は我が国の法学・政治学研究の中心的存在として、その地位を確立してこられたと深く敬意を表します。私の専門は行政学ですが、法学・政治学・隣接分野との学際的な研究の重要性を強く認識しております。本学会において、会員の皆様と緊密に連携し、学術交流を活発化させ、新たな研究領域を開拓していくことで、学問の発展に貢献したいと考えております。特に、現代社会が複雑化する中で、学祭的な本学会の果たす役割はますます大きくなっています。本学会が、時代の要請に応え、社会に貢献できるよう、会員の皆様と共に力を合わせてまいりたいと考えております。

今後3年間、理事長を務める間、本学会のさらなる発展のために尽力してまいります。会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、日本法政学会がますます発展することを心より願い、私の就任のご挨拶とさせていただきます。

令和6年11月28日
理事長 福島 康仁

- 【新理事長の所信表明】
- 1 研究成果の発表・享受の場としての環境整備

- ・魅力的な研究成果の講演等
 - ・個々の人の研究関心に基づいた研究の成果
 - ・新しい学際的アプローチによる成果
 - ・若手研究者の登竜門、発表の場
 - ・建設的で有益な討論
 - ・地方での開催（地域の活性化）
- 2 ダイバーシティの推進

- ・委員会活動や研究会のプログラムの構築等においてその推進を強化
 - ・様々な分野の委員がホームグラウンドと感じて参加できる環境
- 3 次世代の研究者育成

- ・次世代の研究者の育成に貢献できる学会
- 4 国際化の推進

- ・これまで以上に、プレゼンスを高め、国際的に開かれた学会
- 5 新しい情報発信

- ・ホームページ、メールによる発信を安定的に行うと共に、特に社会への発信力を強化し、各種SNSを用いた情報発信についても検討
- 6 予算の有効活用

- ・資源を有効活用し、学会の活性化
 - ・財務状況のさらなる安定化



▲学会運営にご尽力いただいた福島先生・大久保先生と福島ゼミの皆様。ありがとうございました！

【事務局より】

第142回総会及び研究会は、令和7年6月14日（土）～15日（日）に、北海道札幌市の北海学園大学で開催いたします。個人報告をご希望の会員の方は、令和7年1月17日（金）までに学会HP（<https://www.jalps.jp/index.html>）に掲載しています書式をもって、日本法政学会企画委員会にお申込みください。

編集後記

3年前、松野理事長からの特命でニューズレター「学会通信」を発行することとなりました。学会研究会に対する会員の参加意識を高め、学界を活性化するというのがその目的でした。以来、学会研究会が開催されるごとに、次回学会案内に先立ち、その雰囲気をお伝えし、次回学会への参加を促すべく写真記事を中心にまとめてきました。その間、広報委員会幹事をお願いした牧野会員には本当にお世話になりました。文字通り手弁当で作業にあたってくださいました。手弁当ゆえの限界はありましたが、皆様からの激励、ご意見がどれだけ助けてくださったか、改めて感謝申し上げます。新しい委員会のもと、さらなる学会の発展に向けて、ますます充実した活動がなされることを祈念します。

広報委員会委員長 草鹿晋一